











関西経済レポート (2月号)

-  12月の鉱工業生産指数は2カ月連続の前月比マイナス。1月実質輸出は大幅プラスであることから、生産増が期待されるが、その後の生産動向は見極めにくい。
-  1月の貿易は輸出が4カ月連続のマイナス、輸入は5カ月連続のマイナスとなった。輸出減が響いた結果、貿易収支は2カ月ぶりの赤字となったものの、前年同月から赤字幅は縮小となった。
-  1月の消費者態度指数は小幅改善した一方、景気ウォッチャー調査(現状判断DI)は2カ月ぶりの悪化。先行き見通しも春節を控えインバウンド消費への期待はあるものの、中国経済の減速や株安を不安視する声が多く、3カ月連続の悪化。
-  1月の大型小売店の販売額は、2カ月連続の前年比増加。
-  1月の新設住宅着工戸数は前年比+10.2%と3カ月ぶりのプラス。
-  1月の有効求人倍率は横ばいだったが、1991年6月以来の高水準が続く。新規求人倍率も3カ月連続の上昇。完全失業率も前月から改善しており、雇用環境は好調である。
-  1月の公共工事請負金額は2カ月ぶりの前年比マイナス。12月の建設工事は4カ月連続の同マイナス。関西、全国共に減速が続いている。
-  中国1月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は前月から下落し、6カ月連続で50を下回った。2012年8月以来の低水準。非製造業購買担当者景況指数も3カ月ぶりの下落。

※「近畿」「関西」は、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府4県。
鉱工業生産、大型小売店販売額のみ、福井を含む2府5県。

※本レポートは、一般財団法人アジア太平洋研究所
“Kansai Economic Insight Monthly”と連携しています。

～ 関西経済のトレンド ～

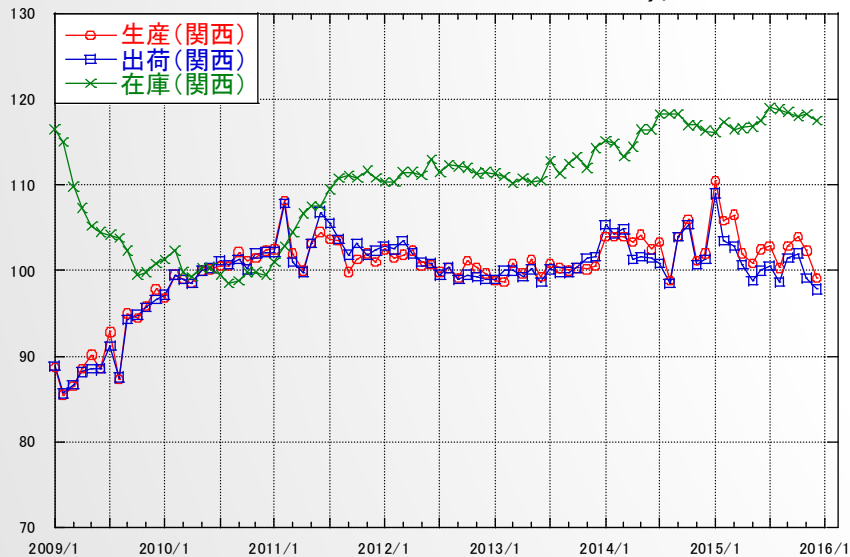
	2015年												2016年
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
生産	↗	↘	↗	↘	↘	↗	→	↘	↗	↗	↘	↘	—
貿易	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	→	↗	→
センチメント	↗	↗	↗	→	↘	↗	↘	↘	↘	→	↘	↗	↘
消費	→	↗	↘	↗	↗	→	↗	↗	↗	↗	↗	→	↗
住宅	↘	↘	→	↘	↗	↗	→	→	→	↗	→	↘	↗
雇用	→	→	→	↗	↗	→	↗	↗	↗	→	↗	↗	→
公共工事	↘	↘	↘	↗	↘	↗	↘	↘	↘	↘	→	→	↘
中国	↘	→	↘	↘	→	→	→	↘	→	→	→	↘	↘

～目次～

生産	1
輸出入	2
消費者センチメント	3
個人消費・住宅	4
雇用	5
公共投資	6
中国経済動向	7

～生産～

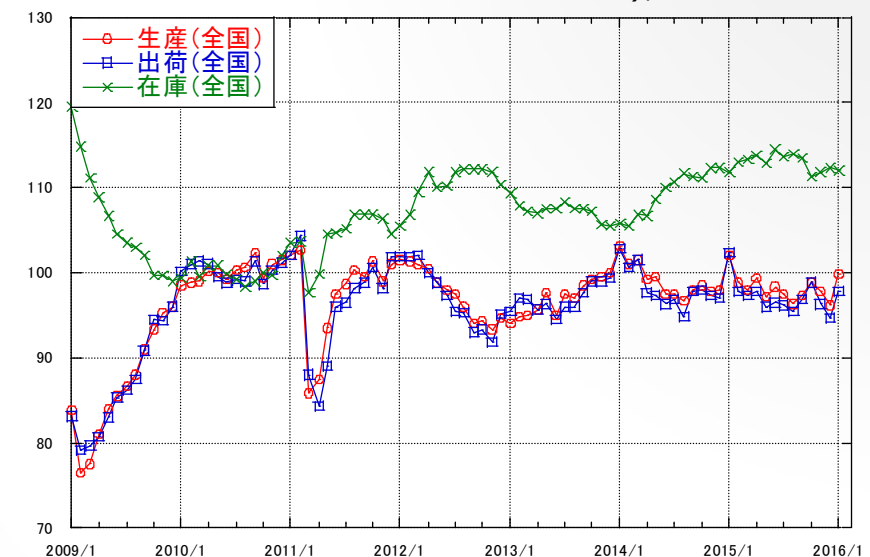
鉱工業指数の推移（近畿・2015年12月まで）、2010年=100



(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

- 関西12月の鉱工業指数(確報値：季節調整済)を見ると、生産は99.2で前月比-3.0%、出荷は97.7で同-1.5%といずれも2カ月連続の下落。一方、在庫は118.1で同-0.2%と2カ月ぶりの下落。
- 業種別に生産指数をみると、はん用・生産用・業務用機械(同-5.5%, 2カ月連続)、電子部品・デバイス(同-14.1%, 2カ月ぶり)、輸送機械(同-9.1%, 3カ月ぶり)等が減産。一方、金属製品(同+10.6%, 3カ月ぶり)、情報通信機械(同+4.1%, 2カ月ぶり)、その他(同+3.3%, 3カ月ぶり)等が増産。
- 足下、関西の生産はマイナス。結果、10-12月期は前期比-0.1%と2期ぶりの減少。なお、2016年1月の実質輸出は前月比+9.8%と非常に大きな伸びをみせており、同月の全国生産もプラスであった。関西1月は増産が期待されるが、中国経済の動向もあり今後の生産回復は見極めにくい。

鉱工業指数の推移（全国・2016年1月まで）、2010年=100

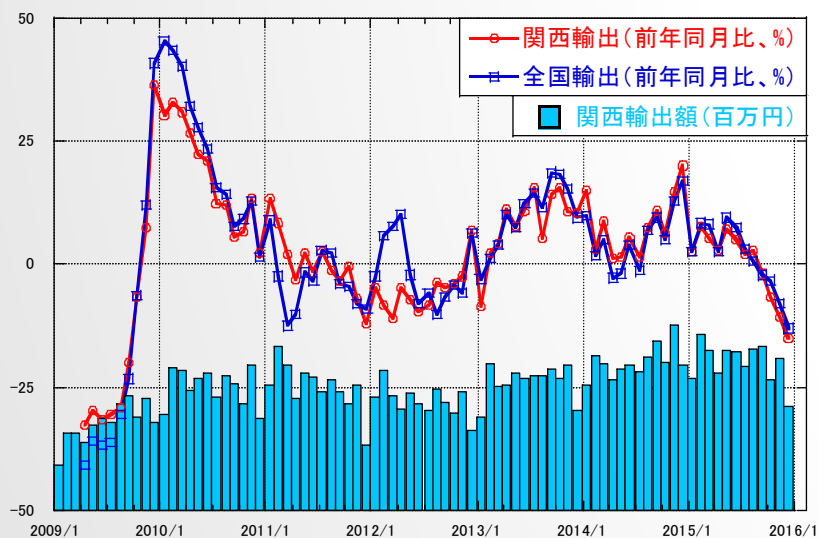


(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

- 全国における2016年1月の鉱工業生産指数(速報値、季節調整済)は99.8となり前月比+3.7%、出荷は97.9で同+3.4%といずれも3カ月ぶりの上昇。在庫は112.0で同-0.3%と3カ月ぶりに下落した。
- 業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(同+7.3%, 3カ月ぶり)、輸送機械(同+2.9%, 3カ月ぶり)、電子部品・デバイス(同+6.3%, 3カ月ぶり)等が増産となった。一方、化学(除. 医薬品)(同-0.3%, 2カ月ぶり)、石油・石炭製品(同-1.2%, 2カ月ぶり)は減産となった。
- 生産は第1四半期のスタートとしては好調な滑り出しとなったが、先月の製造工業生産予測調査の見込み(同+7.6%)に比すれば大きな下方修正であった。2月は同-5.2%の減産、3月は同+3.1%の増産の見込みとなっており、仮に見込みが実現すれば1-3月期の生産指数は前期比-0.3%となる。

～輸出入～

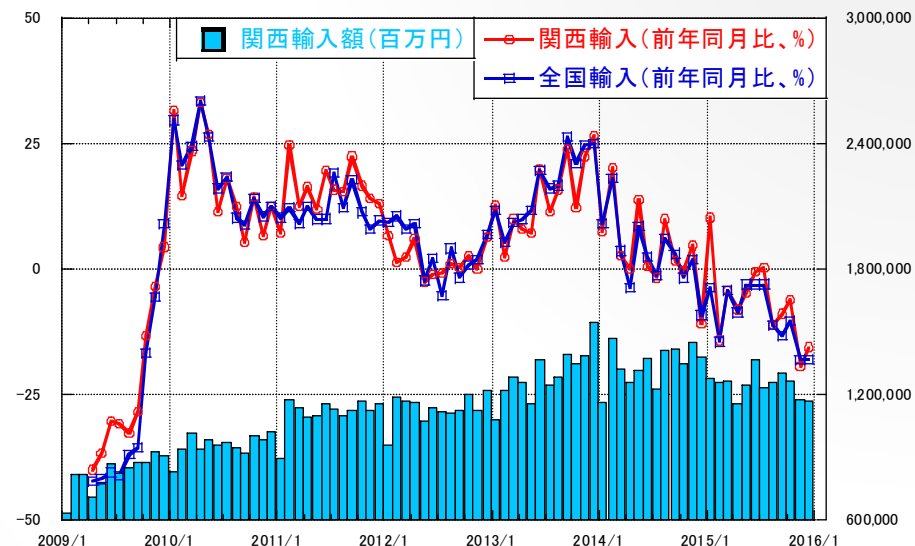
輸出動向 (右：輸出額、左：前年同月比) (2016年1月まで)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

- 関西1月の輸出額(速報値)は1兆1,098億円。前年同月比-14.9%と大幅に減少し、4カ月連続の減少。
- 財別に見れば、鉄鋼、科学光学機器の輸出が減少。
- 全国1月の輸出額(確報値)は5兆3,514億円、前年同月比-12.9%と4カ月連続の減少。財別に見れば、鉄鋼、有機化合物、鉱物性燃料の輸出が減少した。
- なお、足下、為替レート(税関長公示レートベース)は119.57円と前年同月比-0.3%の円安と、円安による輸出額増加の効果はほぼ剥落した。

輸入動向 (右：輸入額、左：前年同月比) (2016年1月まで)

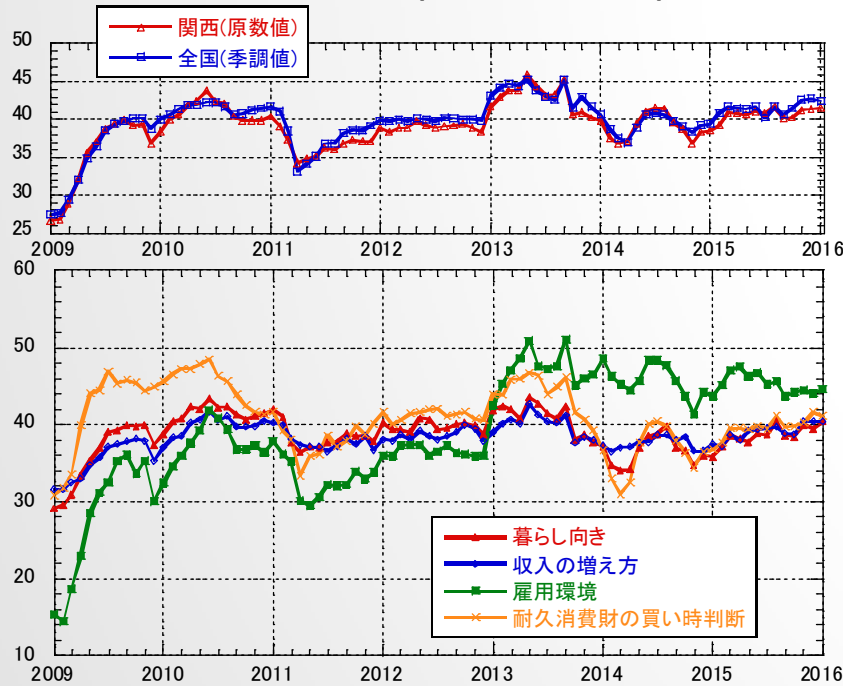


(出所) 財務省「貿易統計」

- 関西1月の輸入額(速報値)は1兆1,668億円、伸びは前年同月比-15.5%と5カ月連続の減少。
- 財別に見れば、天然ガス及び製造ガス、原油及び粗油が減少した。
- 全国1月の輸入額(速報値)は6兆2億円、前年同月比-18.0%と13カ月連続の減少。
- 財別に見れば、原粗油、液化天然ガス、石油製品等の輸入が減少している。
- 貿易概況(速報値)によれば、1月関西の貿易収支は-570億円と2カ月ぶりの赤字となり、赤字幅は前年同月から-25.0%縮小した。全国の貿易収支(速報値)は-6,488億円と2カ月ぶりの赤字となったが、赤字幅は前年同月から-44.7%縮小した。

～消費者センチメント～

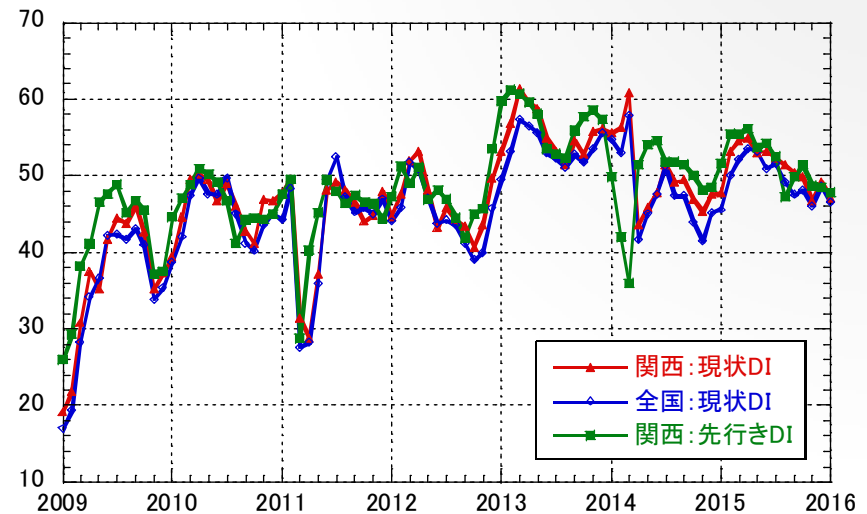
消費者態度指数(2016年1月まで)



(出所) 内閣府「消費動向調査」

- 関西の1月の消費者態度指数(原数値)は前月比+0.2ポイントの41.6と小幅改善。4カ月連続のプラス。一方、全国(季節調整値)では同-0.2ポイントの42.5と4カ月ぶりのマイナス。中国経済の減速や原油安を受けた株価下落、円高などを受け、景気の先行き不透明感が悪化に寄与したとみられる。内閣府は消費者心理の基調判断を、前月の「持ち直しの動きが見られる」から、「持ち直しのテンポが緩やかになっている」と下方修正を行った。
- 関西で同指数の構成項目をみると、「暮らし向き」が同+0.9ポイント改善(2カ月ぶり)、「雇用環境」が同+0.5ポイント改善(2カ月ぶり)した。一方、「収入の増え方」は2カ月連続で同横ばい、「耐久消費財の買い時判断」は同-0.5ポイント悪化(4カ月ぶり)した。消費者心理の改善は緩やかなものにとどまっている。

景気ウォッチャー調査(2016年1月まで)

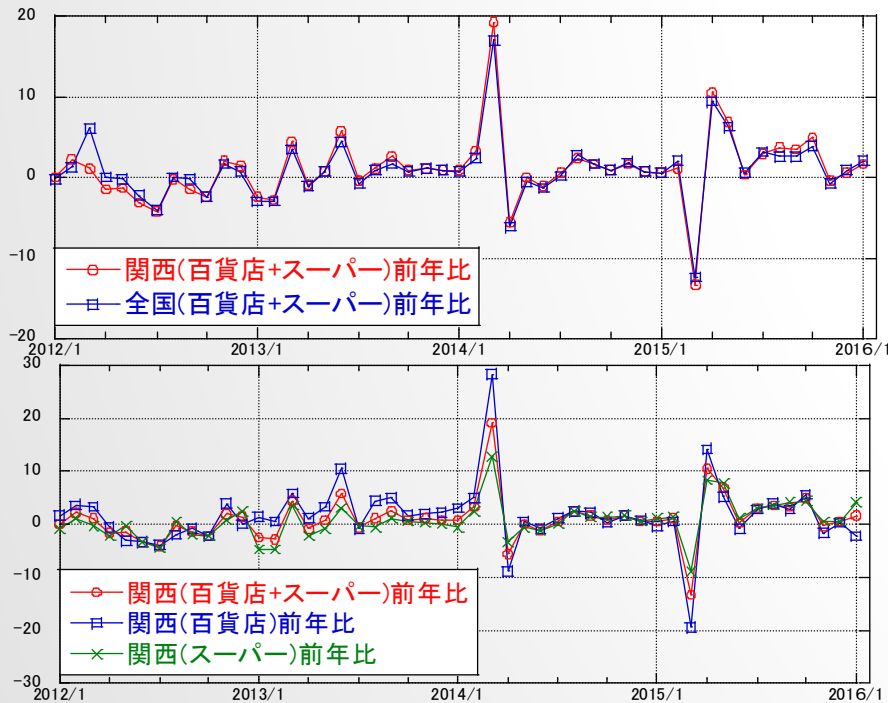


(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

- 関西の1月の現状判断DIは前月比-2.1ポイント低下し47.1となり、2カ月ぶりの悪化。景況感の良し悪しの分かれ目となる50を4カ月連続で下回った。年始の初売りが堅調であったものの、暖冬が続いていること、株価の下落や中国経済の減速などが心理面に悪影響をもたらした。全国も同-2.1ポイント低下し46.6となり、2カ月ぶりの悪化。判断の分かれ目となる50を6カ月連続で下回っている。
- また、先行き判断DIは、関西では47.9と前月比-0.6ポイント低下し、3カ月連続の悪化。春節を控え、インバウンド消費への期待はあるものの、中国経済の減速や株安を不安視する声が多く、先行き見通しを押し下げた。

～個人消費・住宅～

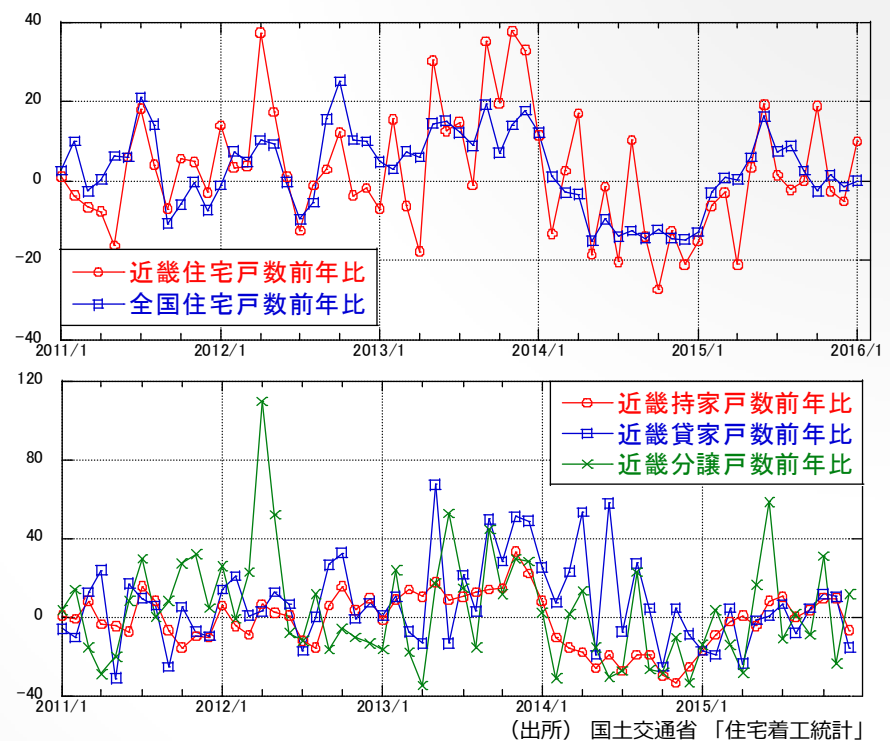
大型小売店販売額（前年同月比：％、2016年1月まで）



(注) 福井県を含む。
(出所) 経済産業省「商業動態統計」

- ・ 関西1月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比+1.6%増加し2カ月連続のプラス。
- ・ 百貨店は同-2.2%減少し、2カ月ぶりのマイナス。
- ・ スーパーは同+4.2%と大きく増加し、10カ月連続のプラス。
- ・ 全国の大型小売店販売額(1月、全店ベース)は同+2.1%と2カ月連続のプラス。
- ・ 関西、全国共に、大型小売店販売額はプラスとなった。2014年4月の消費増税以降、実質所得の減少により消費の落ち込みが懸念される状況が今なお続いているが、2015年関西の大型小売店販売額は概ね前年比プラスで、これは百貨店だけでなく、スーパーにおいても同様であった。

新設住宅着工(前年同月比：％、2016年1月まで)

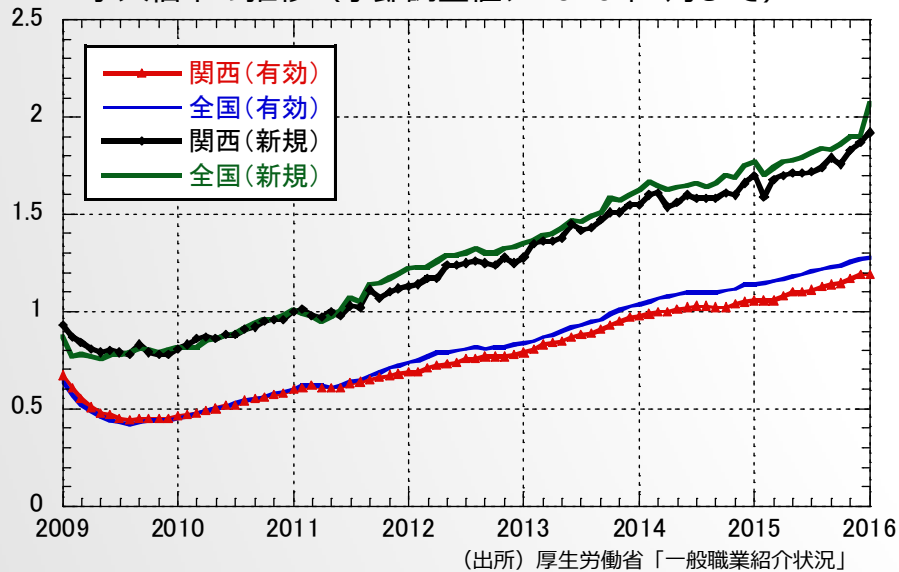


(出所) 国土交通省「住宅着工統計」

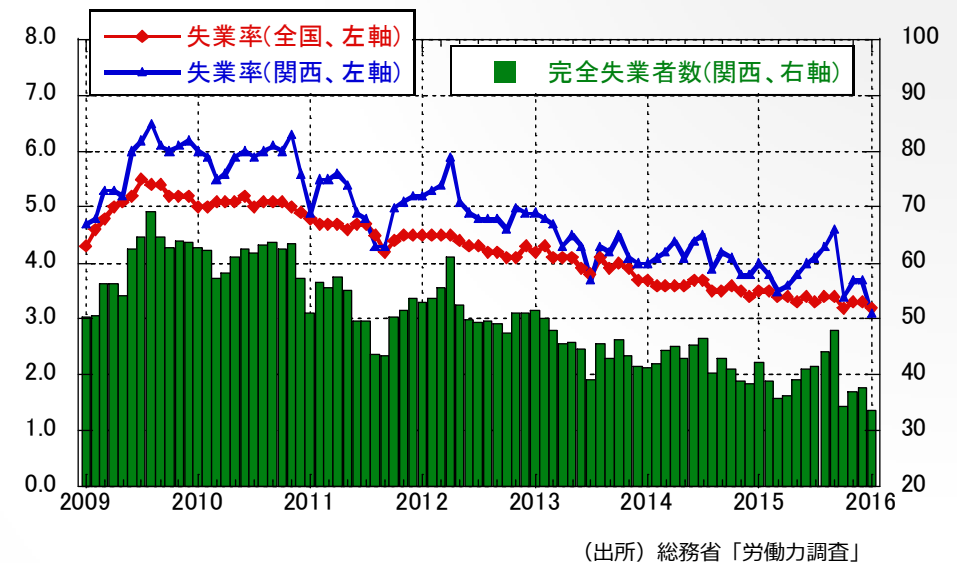
- ・ 関西1月の新設住宅着工戸数は10,581戸。前年同月比+10.2%と3カ月ぶりのプラス。
- ・ 全国は67,815戸、同+0.2%増加し、2カ月ぶりのプラス。
- ・ 関西の住宅着工を利用関係別にみると、持家は2,605戸の同+4.0%と2カ月ぶりのプラス、貸家は4,023戸の同+12.1%と2カ月ぶりの大幅プラス。分譲は3,797戸と同+12.4%の大幅増加。2カ月連続のプラス。
- ・ 1月の関西マンション契約率は73.4%(季節調整値、APIR推計)。好不調の目安となる70%を5カ月ぶりに上回り、前月(62.6%)から大きく上昇した。首都圏も60.9%(季節調整値、APIR推計)と、前月(67.3%)からさらに大きく下落した。なお、季節調整値は2016年1月より更新した。

～雇用～

求人倍率の推移 (季節調整値、2016年1月まで)



完全失業率の推移 (季節調整値：%、万人、2016年1月まで)



関西2府4県有効求人倍率(受理地別)(2016年1月)

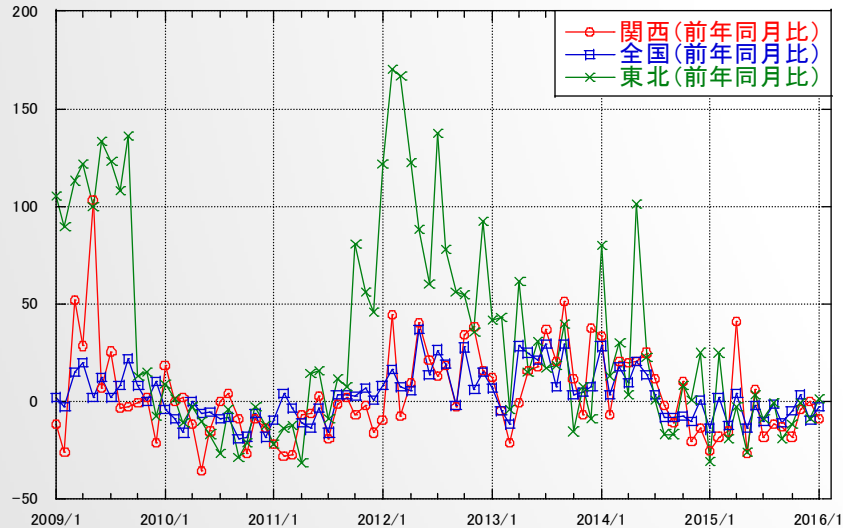
	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
1月	1.28	1.19	1.10	1.28	1.27	1.05	1.11	1.08
12月	1.27	1.19	1.10	1.26	1.29	1.04	1.10	1.09

- 1月の関西の有効求人倍率は、1.19倍で前月比横ばい。1991年6月(1.22倍)以来の高水準が続いている。1月の全国は1.28倍で同+0.01ポイント小幅上昇。1991年12月(1.31)以来、24年ぶりの高水準となった。雇用情勢は堅調である。なお、今月より季節指数が改定されている。
- 府県別では、京都府で前月比+0.02ポイント、兵庫県・奈良県で同+0.01ポイント上昇。滋賀県は同横ばい、和歌山県で同-0.01ポイント、大阪府で同-0.02ポイント低下した。
- 1月の関西の新規求人倍率は、1.92倍と前月比+0.05ポイント上昇。3カ月連続の上昇。全国は2.07倍と同+0.17ポイント上昇した。
- 大阪の産業別新規求人数は、前年比+2.3%で4カ月連続の増加。建設業、飲食・宿泊サービス、生活関連サービス業、医療・福祉で増加した。

- 1月の関西の完全失業率(季節調整値：APIR推計)は3.1%で前月比-0.6%ポイント改善。労働力人口と就業者数がいずれも2カ月連続で増加していることから、職探しが就業に結びついていると考えられる。雇用環境は好調である。なお、今月より季節指数を改定した。
- 関西の完全失業者数(季節調整値：APIR推計)は33.6万人で前月から-4.2万人減少。3カ月ぶりのマイナス。
- 全国の完全失業率(季節調整値)は3.2%と前月比-0.1%ポイント小幅改善。3カ月ぶりの低下。
- 1月の全国の完全失業者数(季節調整値)は212万人と前月比-9万人減少。非労働力人口が前月比43万人減少。就業者数が同61万人増加しており、うち女性が50万人であった。人手不足感の高まりを受け、女性を中心に職探しが就職に結びついたとみられる。
- 15～64歳の就業率(原数値、全国ベース)は73.7%で前年比+1.2%ポイント上昇。うち女性は同+2.1%ポイント上昇した。

～公共投資～

公共工事請負額(前年同月比：%、2016年1月まで)

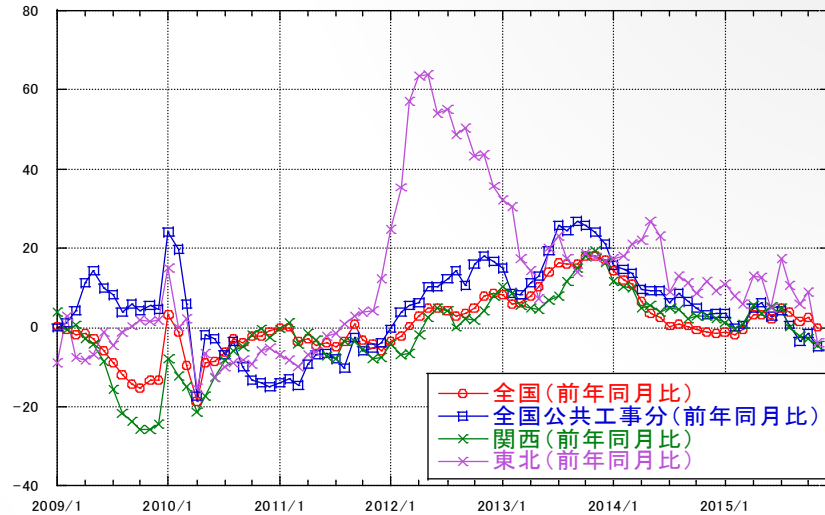


(注) 福井県を含む。

(出所) 東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

- 関西1月の公共工事請負額は644億円で前年同月比-8.8%と2カ月ぶりの減少となった。
- 全国は6,535億円で同-2.6%と2カ月連続のマイナス。
- 東北は1,282億円で同+1.4%と7カ月ぶりのプラス。
- 季節調整値(APIR推計)で見ると、関西は2カ月ぶりに前月から大幅減少、全国は2カ月ぶりの増加となった(関西：同-15.4%、全国：同+3.7%)。
- 公共工事は減速が続いている。
- なお、季節調整値は2016年1月より更新となった。

建設工事(前年同月比：%、2015年12月まで)

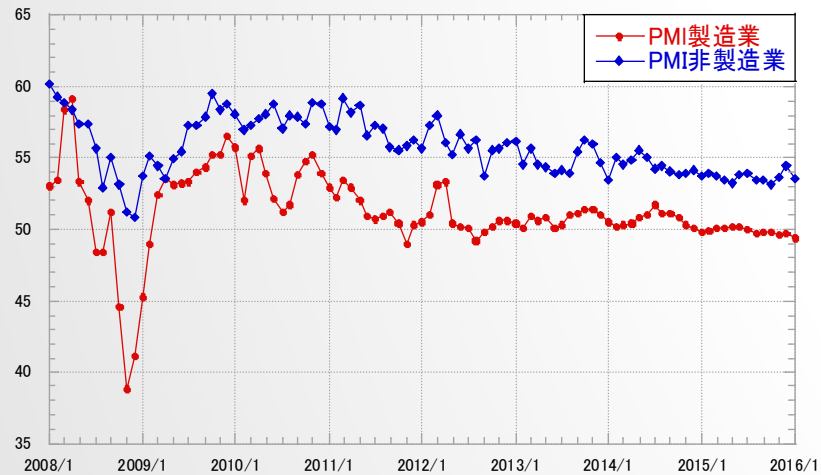


(出所) 国土交通省「建設総合統計」

- 関西12月の建設工事は5,781億円、前年同月比-5.2%と4カ月連続で減少した。
- 東北は6,258億円、同-7.5%と2カ月連続の減少。
- 全国は4兆7,325億円となり、同-2.1%と2カ月連続の減少。うち、全国の公共工事は2兆1,604億円で同-7.8%と4カ月連続のマイナスとなった。
- 全国、関西、東北の建設工事はいずれも停滞している。

～中国経済動向①～

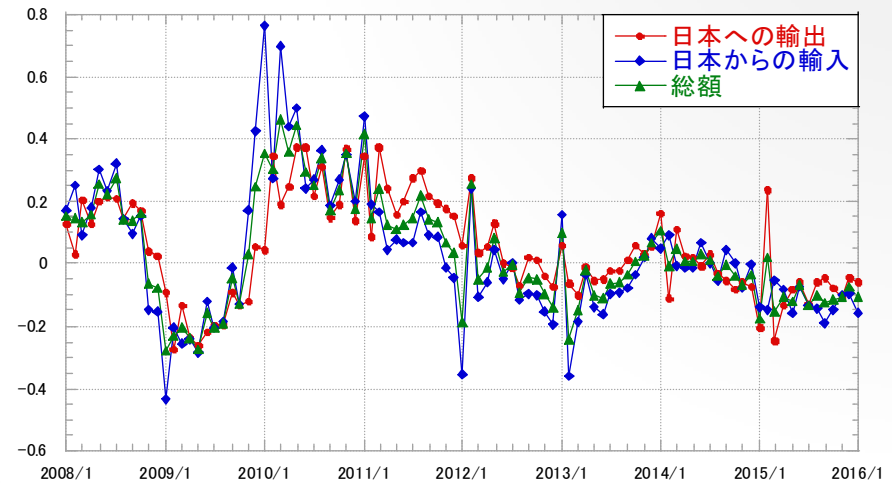
製造業購買担当者景況指数 (2016年1月まで：%)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

- 1月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は49.4となり、前月から-0.3ポイント下落。6カ月連続で50を下回っており、2012年8月(49.2)以来の低水準となった。また、非製造業購買担当者景況指数は53.5となり、50を上回ったものの、前月から-0.9ポイント下落し、3カ月ぶりの下落。
- 製造業のうち、生産指数は51.4となり、前月から-0.8ポイント下落。新規受注指数は49.5となり、同-0.7ポイント下落。また、輸出新規受注指数は46.9となり、同-0.6ポイント下落。いずれも2カ月ぶりの減少。一方、雇用指数は47.8となり、同+0.4ポイント上昇。4カ月ぶりの改善。

日本との貿易 (ドル・ベース) (2016年1月まで：%)

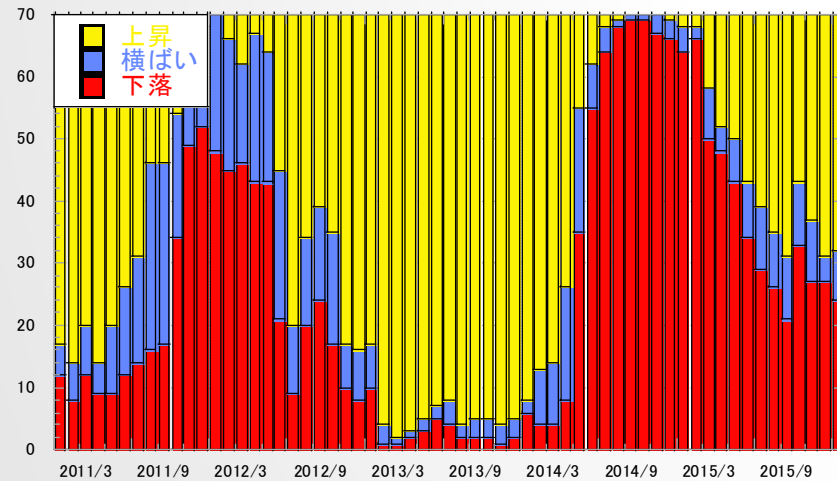


(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

- 1月の中国の輸出額(速報値、ドル・ベース)は前年同月比-11.5%と減少幅は前月(同-1.7%)から大幅に拡大、7カ月連続のマイナス。また、輸入額は同-18.8%(速報値)と前月(同-7.6%)から減少幅は拡大し、15カ月連続のマイナス。結果、貿易収支は+633億ドルとなり、23カ月連続の黒字となった。
- うち、日本への輸出額は同-6.0%と11カ月連続のマイナス。日本からの輸入額は同-16.0%と15カ月連続のマイナスとなった。
- 円ベースに換算すると、日本への輸出額は同-6.0%となり、3カ月連続のマイナス。日本からの輸入額は同-16.0%、5カ月連続のマイナスとなった。

～中国経済動向②～

新築住宅価格の主要都市集計 (2016年1月まで：都市数)



(出所) 中国税関; CEICデータベース(APIR推計)

- 不動産価格(新築住宅価格)を見ると、中国主要70都市のうち、2016年1月は24都市で前月から下落した。38都市で同上昇、8都市で横ばいとなった。

※関西経済のトレンド 評価基準について

- 生産：近畿経済産業局『近畿地域鉱工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- 貿易：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- センチメント：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- 消費：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- 住宅：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- 雇用：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- 公共工事：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。